

ひとりじゃないよ。安心して、一緒に生きよう。

支援は「決して見捨てない」のメッセージ →

生活困窮、不登校、心の不調…

子どもの問題に寄り添う活動を応援「KOTOMO基金」

困難を抱えた子どもの支援活動を応援する新しいプロジェクト「KOTOMO(ことも)基金」。スタートから5カ月がたち、さまざまな成果が上がり始めている。孤立しがちな子どものもとを訪ね、寄り添う活動を通して見えた「光」を紹介する。



経済だけでなく、メンタル面への公的な子育て支援を

社会福祉士 岡崎利治氏
川崎医療福祉大学医療福祉学科講師

厚生労働省は近年「地域共生社会」には制度的な支援が必要と打ち出しています。しかし、2020年問題(回教)の世代が75歳に達する(の)高齢者を支えるため、必要となる(の)高齢者は、高齢者だけでなく、子どもを中心に中心をおいた支援は少ない。しかも、公的な支援は経済に比べて、メンタル面への支援はほとんどありません。子育て支援は、経済的・肉体的なもの、子育て支援は、公的な支援に比べて、メンタル面への支援は、ほとんどありません。子育て支援は、経済的・肉体的なもの、子育て支援は、公的な支援に比べて、メンタル面への支援は、ほとんどありません。

case 02
引きこもりから大学進学
の意思を固めたトモさん

トモさん(仮名、高校3年生)が不登校になったのは、約1年ほど前。このまま生活を変えてほしいという両親と、自分自身で決断できないまま、引きこもり状態が続いていました。しかし、トモさんは、自分自身で決断できないまま、引きこもり状態が続いていました。しかし、トモさんは、自分自身で決断できないまま、引きこもり状態が続いていました。

ここに紹介した2つの事例は比較的早く状況の改善が見られたケースです。子どもが抱える問題は多岐にわたり、解決にはさらに多くの時間や支援を必要とするケースが多くあります。



case 01
2カ月後、自分の意思で学校に行き始めたユイさん

両親の離婚後、学校に行けなくなったユイさん(仮名、小学5年生)は、トモ基金の配分を受けて訪問支援に取り組み。トモ基金の3人(仮名)が家を訪ねた日、ユイさんは「お口を開けたい、お話を聞きたい」と話しました。トモ基金の3人(仮名)が家を訪ねた日、ユイさんは「お口を開けたい、お話を聞きたい」と話しました。



KOTOMO基金ニュース 動画公開中!
KOTOMO基金の最新情報を動画でお届け! コロナ禍での子どもたちの様子、基金からの配分を受けて行った訪問支援についてなど、たくさんのお話を聞きました!

第3回経過報告

子どもプロジェクト「KOTOMO基金」ご寄付に関する報告 2021年5月29日～2021年10月25日

個人	種別	申し込み		うち、決済済み	
		数	金額	数	金額
個人	年間サポーター	51件	165,000円	48件	156,000円
	都度寄付	118件	2,357,332円	109件	2,293,332円
法人	年間サポーター	1団体	3,000円	1団体	3,000円
	都度寄付	2団体	※1,300,000円	※2団体	※1,300,000円

※9月26日の振込でご報告しました(法人 年間サポーター)の件数および金額に誤りがあり、訂正しています。

第4期配分情報

2021年9月の活動に対する訪問支援への配分
● NPO法人活動フリースクールおかもやま: 訪問25件(250,000円)
● NPO法人あかね: 訪問8件(80,000円)
計23団体により33件の訪問支援を実施しました。
(計330,000円配分)